

1 単元設定の理由

(1) 単元について

高知県の西南部に位置する幡多地域は、気候温暖で自然環境に恵まれていることから考古学上の遺跡が大変多く、川に囲まれた中州の町である四万十市中村の遺跡は、その流域に点在している。また、本校のある具同地区は、四万十川と中筋川の二つの大きな川に挟まれてできた地域であり、これまでも数多くの遺跡が発掘され、遺跡の宝庫とも言われている。このことから古来より、山、川、平地の恩恵を受けながら、多くの人々が生活できうる豊かな営みがあったと考えられる。

具同地区には、具同中山遺跡群、アヅノ遺跡、入田遺跡、坂本遺跡、栗本城跡、香山寺跡等、これまでに約30箇所から遺跡が発掘されている。アヅノ遺跡は、日本で初めて地震の痕跡である噴砂が発見された貴重な遺跡として知られ、入田遺跡からは、大昔の生活を知るための手掛りとなる打製石斧や縄文土器が数多く発掘されている。中でも、具同中山遺跡群は、祭祀遺跡として全国的にも有名であり、高知県最大の勾玉も見つかった。このように、詳しく調べる値打ちのある遺跡が数多く存在しているのが、我がふるさと「四万十・具同」であるが、その存在は多くの人に知られていないという現実がある。そこで、今では大きな商業施設の下となった「具同中山遺跡群」にスポットを当て、そこから見えてきたことや、土器作りにチャレンジすることで昔の人の生活を体験し、現代のくらしとの比較を通して感じたこと等を「歴史の語り部」となって発信させていく。これら一連の学習を通して、ふるさとの歴史に対する誇りや愛着を感じ地域のために行動することで、地域の一員としてふるさとを大切にす児童を育成できると考えている。

(2) 育てようとする資質・能力及び態度について

本単元では、「B 思考力・判断力・表現力等」の「整理・分析する力」と「まとめ・表現する力」に重点を置き、学習を組み立てていく。「整理・分析する力」については、個人やグループでの調べ学習、土器作り等の体験学習での情報を整理し、自分たちが伝える価値のある四万十の歴史について分析していくことで思考力及び判断力の向上を図りたい。また、「まとめ・表現する力」については、四万十の歴史をより多くの人たちに伝えていくための手段や、より分かりやすく、効果的に伝えるための方法を考えさせていきたい。

(3) 児童について

児童はこれまで、3学年「具同じまん」「みんなのトンボ公園」4学年「みんなの宝 四万十川」で「自分が生まれ育ったふるさとの自然に目を向け、それを守り育む一員として自分達にもできることを実践する」資質・能力及び態度を培ってきた。更にそのことを基盤とし、5学年では「食で地域を盛り上げ隊」を立ち上げ、食糧生産に関わる人々の工夫や努力を知り、ふるさとの産業に更なる値打ちを見出すことのできる児童の育成を目指した。このように、地元の四万十川やトンボ公園等の素材、米作りから販売までの活動を通して、地域のことを知り、地域の人々とふれ合う学習を行う中で、四万十市には多くの人たちに自慢し誇れる豊かな自然があることに気付いてきている。

しかし、本単元で取り上げる「四万十の歴史」については知識が曖昧で、値打ちある数多くの遺跡が発掘されていることも、講師の話や昨年度の6年生が残してくれた「具同歴史発見！」パンフレッ

ト等で学習する中で初めて知り得たことがほとんどであった。そこで、今一度「歴史」というこれまでとは異なる視点からふるさを見つめることが、新鮮な学習意欲を抱くことに繋がったともいえる。

(4) 指導について

4月、社会科の学習で縄文・弥生・古墳時代の人々の暮らしぶりに興味を抱き、自主学习等で調べてくる児童の姿がみられたが、その時点ではあえて全体に広げず、6月末本単元をスタートさせた。そして、四万十郷土資料館リニューアルに伴い開催されている「四万十特別企画展」見学をきっかけに、「ふるさと四万十の大昔の人々は、どのような暮らしをしていたのか」を知りたいという意欲が高まり、自分が特に解決したい課題も見つけた。9月には、夏休みの個人調べの成果を持ち寄り、それぞれのグループで研究成果を模造紙にまとめる学習を進めてきた。全体交流の場では、友だちの勾玉づくりの体験談を聞くなかで「自分たちも大昔の人達の暮らしを体験したい!」という要望が出てきた。そこで、土器グループの発表内容を手がかりにして「土器作り」に取り組むことを決定し、1学期にお世話になった専門家の方々に連絡をとり、デザイン→成形→乾燥→焼くという工程でのポイントや留意点等をアドバイスしていただいた。この体験を通して、縄文・弥生・古墳時代の人々は、この四万十川流域でどのように生活し土器を活用していたのだろうかという思いから、今一度具同地域に点在するいくつかの遺跡や遺物に立ち返るきっかけとも成り得た。更に今年度は、「具同中山遺跡群」に絞って遺跡の特徴や価値を児童が追究し、未来へ伝えていくための方法を工夫し実践させていくことで、ふるさと四万十に対する誇りを再発見できると考えている。

本時は、「未来へ繋ぐ、歴史の語り部になろう!」の導入場面であり、具同中山遺跡群をより多くの人に正確に知ってもらうための内容や方法を厳選していくための1時間である。児童はこれまでに遺跡巡りや専門家や文献から得た知識を、昨年度の6年生のように形にして伝えたいという思いが大きくなってきているであろう。そこで、「伝える内容」「伝える相手」「伝える方法」の中の「伝える内容」を具体的に決定し、17時間のスタートに立たせる。そのためには、単に遺物や遺構、遺跡の場所等の紹介に終わらないように、遺跡から分かる縄文・弥生・古墳時代の人々の生活ぶりをより具体的に想像させたい。また、貴重な遺跡が現在では商業施設の下にあり、それを示す看板すらない現状について取り上げ、「伝えたい」から「伝えねばならない」という危機的な状況を設定することで、児童が「歴史の語り部」になりたいという意欲を高めていきたい。更に、昨年度の総合的な学習「食で地域を盛り上げ隊」で応援ソングやキャラクター、キャッチフレーズ等を考える時に押さえてきた「生産者の思い」「体験」とも絡めながら、今も昔の人々も手法は代わっても、自然への感謝や畏敬の念を忘れず生活をしていることにも気付かせたい。

2 単元の目標

- 遺跡や遺物を調べたり、土器作りを体験したりする中で、地域の成り立ちや人々がふるさとの自然に対してどう向き合い生活をしていたのかを知る。（知識及び技能）
- 四万十の歴史について興味・関心を持ち、調べ学習や体験学習を通して得た情報を整理分析し、仲間と協力しながら表現していくことができる（思考力・判断力・表現力等）
- 四万十の歴史について話し合い表現する活動を通して、ふるさとの歴史を知り、ふるさとに対する誇りや愛着を持つことができる。（学びに向かう力、人間性等）

3 単元の評価規準

視点	育てたい力	目指す子どもの姿
A 知識及び技能	①各教科で習得した知識及び技能を生かす力	ア 様々な体験活動に向けて、関連機関への申請書や依頼文を書くことができる。 イ 調べた内容や結果を、グラフや表等を使ってまとめることができる。 ウ 表現活動の方法として、音楽づくりや模型造り等を行うことができる。
	②総合的な学習で獲得する知識及び技能	ア 具同地区の主な遺跡が大変価値のあることに気付く。 イ 具同中山遺跡群は、祭祀遺跡として全国的にも有名であり、高知県最大の勾玉が発見された貴重な遺跡であることを理解する。 ウ 土器作りを通して、先人の技術や生活の様子が分かる。
B 思考力・判断力・表現力等	① 課題を設定する力	ア 四万十の歴史について、自分たちの疑問を解決していくための課題を設定できる。
	② 情報を収集する力	ア 分からないことを調べるための手段を積極的に考えようとしている。 イ あらゆる文献や専門家のお話、施設見学等から課題に合わせた情報を収集することができている。
	③ 整理・分析する力	ア 調べ学習や体験学習での情報を整理し、自分たちが伝える四万十の歴史について分析している。
	④ まとめ・表現する力	ア 自分たちが伝えたい四万十の歴史について、たくさんの人に興味を持ってもらうために工夫し、仲間と協力しながら、より分かりやすくまとめ表現している。
C 学びに向かう力・人間性等	①自分自身を理解し生き方を考える力	ア 調べたことを効果的に伝えるために、自分たちができることを考えている。 イ 調べたことや専門家のお話からふるさとについて深く考え、自分の生活を見つめることができる。
	②意志決定し行動する力	ア ふるさとの歴史を知り、地域との関わりを深めることで、ふるさとに対する誇りや愛着をもつことができている。
	③社会（人）と関わり合う力	ア 専門家から積極的に話を聞き、疑問や課題を解決しようとしている。 イ 調べたことを友だちや家族、多くの人に分かりやすく、具体的に伝えることができている。

4 単元計画（全55時間）

学 習 活 動	子どもの問い・思考	評価規準
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 四万十市の大昔の人の暮らしを知ろう。（15時間） </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ○大昔の人の暮らしについて話し合う。 ○四万十市の遺跡や出土品等から、自分達の今後の学習の手がかりを持つ。 ○自分が調べたいテーマを絞り課題を設定する。 ○個人やグループで、調べ学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県には、こんなに沢山の古墳がみつまっているんだね。【ウェビングマップ】 ・四万十市や具同の遺跡について知る方法はないかな。 ・「四万十特別企画展」では、四万十市から出土した土器の特徴や勾玉、石斧などについても分かったよ。 ・「四万十特別企画展」で観たり聞いたりした事を整理してみよう。 ・まだまだ私たちの知らないことが色々ありそうだ。 ・発掘に関わった人を呼んで話を聞いてみたいな。 ・夏休みの自由研究や自主学習でも調べてみよう。 ・「四万十市の大昔の人の暮らし」について書いてある資料を見つけたよ。 ・友達や多くの人に自分達が調べたことを伝えるためにはどうすればいいかな。 ・友達の発表を聞いていると、自分達も体験したくなってきたね。 	<p>B-①-ア</p> <p>B-②-ア B-②-イ</p> <p>B-①-ア</p> <p>B-③-ア A-①-イ</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 土器づくりを通して昔の人々の生活や思いを考えよう。（10時間） </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ○土器づくりに取り組む。 ○土器を活用してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古代人が行っていた方法で、土器づくりに組みたいな。専門家にアドバイスをもらおう！ ・土器を焼くためにしなければいけないことは何だろう。 ・土器グループの人達が調べた方法は使えないかな。 ・大昔の人々はこんなに時間をかけて自分達で道具を作って生活していたんだね。今私たちが使っている器とは随分違うよ。 ・作った土器を活用する方法を考えよう。 ・昔の人と同じように、生活の中で使ってみたいな。 	<p>C-③-ア A-①-ア A-②-ウ</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 具同地区の遺跡について学ぼう！（1時間） </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ○具同地区の主な遺跡（具同中山遺跡群、アヅノ遺跡、入田遺跡、坂本遺跡、栗本城跡、香山寺跡）について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6か所の遺跡の中でも、具同中山遺跡群は祭祀遺跡として全国的にも有名なんだね。高知県で一番大きい勾玉も発見されているんだ。 ・去年の6年生が作成したパンフレットにも、具同中山遺跡群のことが書いてあるね。 	<p>C-①-イ</p> <p>A-②-ア</p>

具同中山遺跡群について深く学んでいこう！ （12時間）

○具同中山遺跡群について知る。

- ・遺跡の場所や大きさを特定する方法は何だろう。
- ・資料では、分かりにくいこともあるから現地に行って調べてみよう！ 専門家に具同中山遺跡群を案内してもらえないかな。
- ・具同中山遺跡群の上には色々なお店等が建てられているね。この下に遺跡があるなんて驚くね。
- ・具同中山遺跡群の価値をみんなにもっと伝えたいね。
- ・遺跡の価値を伝えるためにはどんな方法があるのかな。

A-②-イ
B-①-ア
B-③-ア

未来へ繋ぐ、歴史の語り部になろう！ （17時間）

○具同中山遺跡群をより多くの人に正確に知ってもらうための方法を考える。

【本時】

○それぞれのグループに分かれ、発信内容や方法について考え、準備や練習を行う。

○グループごとに、発表し合い、改善点等の意見交流をする。

○出し合ったことをもとに再度、発表に向けての準備を行う。

○発表会を開催する。

○発表を振り返り、これまでの学習をまとめる。

- ・具同中山遺跡群について、どんな事を伝えるべきだろう。
- ・学習した中で、伝えたいテーマを絞っていこう。

B-③-ア

- ・グループを決定して進めよう！
- ・体験した土器作りについてもコーナーを作りたいね。
- ・ぼくたちは、分かりやすい模型を作るよ。材料はどうやって集めようかな。
- ・私たちのグループは、劇にして表現したいな。音楽も入れるとみんなの心に残ると思うよ。

B-④-ア
C-①-ア

- ・〇〇グループの伝え方は、遺跡の価値がもっとアピールできるように、説明だけでなく見えるものを作ったらいいと思うよ。

B-③-ア

- ・友だちからアドバイスをもらったので、よい発表になるよう、もう1度考えてみよう。

A-①-ウ

- ・案内状はどうすればいいかな。
- ・原稿内容や声の大きさ等もチェックして、たくさんの人にしっかり伝えよう。

C-③-イ

- ・1度の発表ではなかなか多くの人には伝えることが難しいね。

C-①-ア

- ・いつでも観てもらえる方法はないだろうか。
- ・私たちの1年間の取り組みや先輩達が残してくれたものを未来へ繋げる方法を見つけないか。

C-②-ア

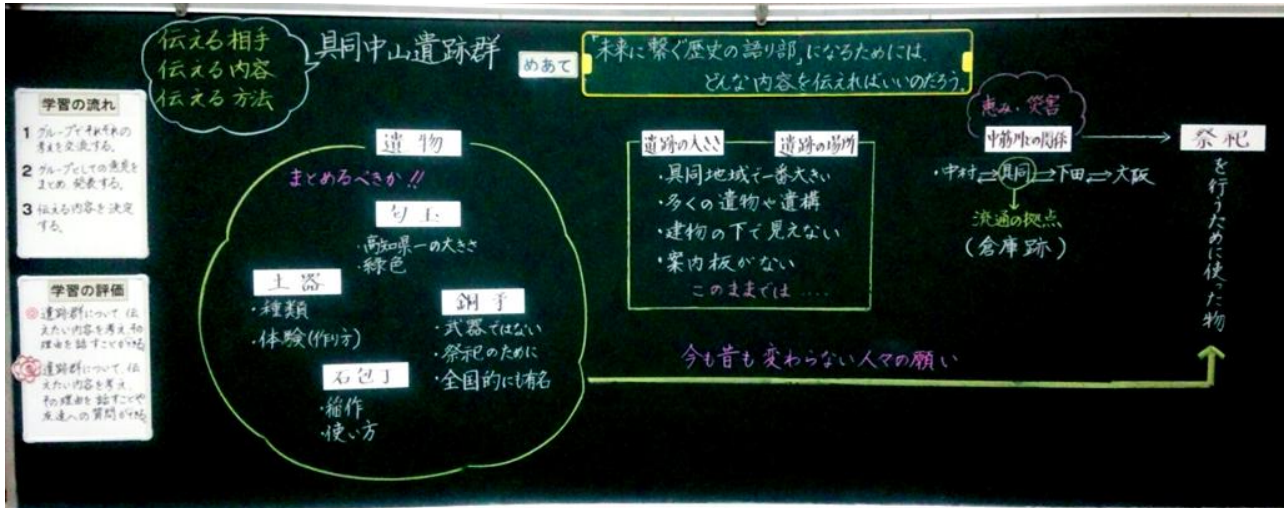
- ・学校のHPにアップしてもらおう。5年生にも観てもらって、昨年と同じように伝え、繋いでもらえたら嬉しいね。

5 本時の学習（39/55時間）

- (1) 目標 「未来へ繋ぐ、歴史の語り部」になるために、これまでの内容を整理・分析し、伝承していく内容を決めることができる。
- (2) 準備物 ワークシート
- (3) 展開

学 習 活 動	子どもの意識の流れ	教師の支援及び留意点(○)・評価(◆)
<p>1、前時までの活動を想起する。</p> <p>2、本時のめあてを確かめる。</p> <p>3、具同中山遺跡群について何を伝えるかを考える。</p> <p>4、伝える内容を整理し決定する。</p> <p>5、今後の活動について考える。</p>	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">具同中山遺跡群のことを知ってほしいな</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">伝える相手</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">伝える内容</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">伝える方法</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「未来へ繋ぐ、歴史の語り部」になるためにはどう伝えればよいのだろう！（内容編）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">具同中山遺跡群には、伝えたいことが沢山あるね</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・見つかった遺物について伝えよう。 ・⑥地点から出土した銅矛は、とても有名だね。 ・勾玉については、高知県一の大きさだということ強調したほうがいいよ。 ・土器については、私たちが体験したことも入るといいね。 ・遺物だけでなく、遺構についてもまとめてみたらいいかもしれない。 ・中筋川と遺跡との関係を伝えたいね。 ・祭祀に関するものが多く出土していることは絶対伝えるべきだと思う。 ・遺跡群の場所について、地元の人でも分かりにくいという現状を多くの人に分かってもらいたいね。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちが一番伝えなければいけないことはどれだろう。 ・私たちの班では、具同中山遺跡群の大きな特徴である祭祀について伝えることが大切という意見が出ています。 ・勾玉を中心に遺物を説明することで、古代人の具体的な姿を紹介したらいいと思います。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を伝わりやすくするためにはどうすればいいのだろう。 ・伝える相手や方法を早く決定したいね。 </div>	<p>○より鮮明に想起させるために、前時までの写真や思考ツールを活用する。</p> <p>○伝えたい内容について、グループで交流させる。</p> <p>○具同中山遺跡群の価値を押しさえ、何のために伝えるのかをはっきりさせる。</p> <p>◆伝えたい内容について考え、理由を伝えあうことができる。</p> <p style="text-align: right;">〔B-③-ア〕</p>

6 板書計画



【論点】

多様な情報を整理・分析することで、具同中山遺跡群の価値を再確認する指導過程であったか。